

30代教師の転

起
んでも
きる!

失敗やつまずきを転機に、授業力を高める!



不本意な大学進学を生んだ悔しさを胸に 生徒が考える授業を追究

愛媛県立松山山西中等教育学校

米澤太器先生

35歳

私が乗り越えてきたもの

「先生、大学を辞めてきました」

前任校に赴任し、3年間持ち上がりで初めて卒業生を送り出したクラスから、3人が大学を中退しました。彼らは大学を1年で辞め、その後1浪し、別の大学に進学しました。志望校に入るために事実上、2浪してしまっただけです。

不本意入学となったのは、明らかに私の力不足でした。自分の高校時代に当てはめ、「受験直前にはもっと伸びるはず」と思い込み、1、2年生ではことさらに意識せずに教えていました。しかし結局、3年生になっても勉強している素振りはなく、学力も伸びず、

「入れそうなところを受験させる」という指導をしていました。「生徒の自主性に任せる」と言う名の、「無責任な指導」になっていたのです。

難関大の過去問が解けない自分

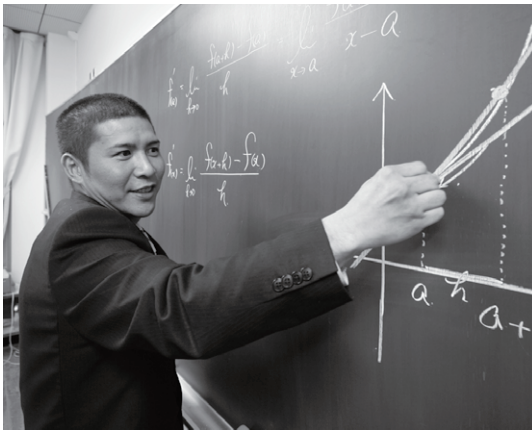
そんな時、浪人した卒業生から「予備校の授業は学校の授業よりも面白くて分かりやすい」と言われたのです。私は愕然としました。生徒が3年生になっても勉強しなかったのは、自分の授業に魅力がなかったからなのではないかと感じたのです。

私はとにかく教科指導力を高めたい

授業の中で挑戦する力を養えていない

一心で、校外の研修に参加しました。演習問題の冊子には難関大の入試問題ばかりが載っていました。中には解けない問題もあり、力不足を痛感させられました。また、講師の授業は面白く、自身の指導力の無さを突きつけられました。ただし、私は講師の授業力だけで面白いと感じたわけではありません。実際に自ら難問に挑んでみたらこそ、授業でその魅力に気付くことが出来たのです。

授業で生徒に与えるだけでは、3年生になっても自分から勉強するようにはならない。自ら挑戦するからこそ、「面白い」と感じ、また挑戦したいと思う。授業でその好循環を回すことが私の目標となったのです。



よねざわ・ひろき ◎教職歴11年。同校に赴任して2年目。担当は数学科。6学年(高校3年)担任。愛媛県立松山山西中等教育学校 ◎全日制/普通科/共学。10年度入試では、国公立大は、北海道大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、愛媛大などに計91人が合格。私立大は、慶應義塾大、明治大、早稲田大、立命館大などに延べ67人が合格。

そして、これからも挑み続ける目標

突き放して、やる気を引き出す

生徒の意欲を引き出す授業をするためにはどうすれば良いのか。私が至った結論は「生徒が常に考える授業をする」でした。すべてを教えてもらえないと思うから、生徒は受け身になる。授業はあくまできっかけであるはずで、そこで「授業がすべてだと思わない」と生徒に伝え、授業内容が理解できたら、演習問題を解いたり、自分で教科書を読み進めたりして良いことにしました。十分な指導力の無い私の逃げかもしれないと迷いつつ、生徒の意識を「教えられる」から「考える」に変えるためにあえて突き放したのです。

これには、生徒に自学を促す狙いもありました。生徒は受け身で、課題が出るのを待っています。センター試験直前の定期考査で「出題範囲はセンター試験と同じだ」と伝えたところ、「先生、何が出るんですか」と質問してきた生徒がいて、あ然とさせられました。私は、常に受け身の姿勢で「授業はただ聞くもの」と信じている生徒に、危機感を持ってほしいと思いました。そして、自分の力量を判断し、自分に必要な学習をする力を付けさせたいと考えたのです。しかし、いきなり突き放しても生徒も戸惑います。特に数学は好き嫌いの出やすい教科なので、段階を踏みました。1年生では簡単な問

題を多くしてテストで7割は得点できるようにし、数学嫌いを出さないようにしました。2年生では、じっくり取り組み解けるような問題から難問へと徐々に移行させていきました。母校での2回りにこのような指導をしたところ、3年生の4月までに自分で数学ⅢCの教科書を読み終えた生徒が3人ほど出ました。私の意図が伝わっているのかもしれないと実感できた瞬間でした。

ことん突き詰めて考えさせ、志望を自分の言葉で言えるようにさせました。本気で入りたいと思うところこそが、自学の原動力になると思ったからです。教科と進路、両方の指導により生徒との関係が築けていけば、突き放す指導は可能だという手応えはつかめました。しかし、3年生で初めて担任になるなど、1年間だけ受け持つ場合にはどう指導すれば良いのか。生徒との関係を築きながら突き放す指導をどう両立させるかを模索しています。

教師が楽観的になれば、生徒は伸びません。手を掛ける指導と突き放す指導のバランスを考えながら、危機感を持って生徒の可能性を追求していく教師でありたいと考えています。

熱く、あらゆる可能性を追求する

正直、「授業に頼りすぎるな」と言うことには不安がありました。生徒は授業を聞かずに、ただ覚えるだけかもしれないからです。そこで、進路はと

目指すは生徒の自律を促すための考えさせる授業



米澤先生 の 授業実践

Q&A

Q 授業で主体的に演習に取り組ませる工夫はされていますか？

A 1、2年生を担当した時には、生徒に授業用と演習用、2種類のノートを用意させました。授業の内容が分かるのならば、生徒自身の判断で授業のレベルを超える演習問題を演習ノートで進めて良いことにしたのです。時には、上位層も興味を持てる入試問題を出し、学級一斉に取り組むということもしています。

ただし、生徒の自己判断に任せすぎると、基本的な内容も理解せず、定期考査の成績が悪いにもかかわらず授業に集中できない生徒も出てきます。そうした生徒には、個別に面談などで指導しました。

Q 個別学力試験の力を付けるために、授業でどのような取り組みをされていますか？

A 入試問題を低学年時から授業の演習に取り入れています。受験直前になって過去問を初めて見て、そのレベルに慌てるよりも、徐々に慣れておいた方が良いと思うからです。

本校では愛媛大の志望者が最も多いのですが、あえて広島大や九州大などの過去問から、既習事項で解ける問題を選んでいきます。大学名を伏せて取り組み、生徒が理解したところで大学名を明かします。生徒にとって少しレベルが高いと感じるような大学の入試問題を選ぶこと、また、地域的に受験する生徒が多い大学の問題を選ぶことがポイントだと思います。

メッセージをお寄せください

◎更なる授業力の向上を目指す米澤太器先生へメッセージをお願いします。同じ課題を抱えている同世代の先生の共感の言葉、独自の授業スタイルを確立された先輩からの応援やアドバイスを自由にお寄せください。編集部より、米澤先生へお届けします。

下記のe-mailアドレスにメッセージを送信ください

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp